

遅れずに穂肥を施用しましょう ～穂肥は葉色が低下する前に確実に施用！～

1 管内の「きらみずき」生育状況

- ・ 6月後半から続く高温により、葉色が急激に低下しているほ場が散見されます。
- ・ 分けつ旺盛なほ場では葉色の変化に注意し、穂肥適期を逃さないようにしましょう。



写真：7月2日時点の生育

2 穂肥を適期に施用しましょう

- ・ 収量・品質向上のためには、**生育後半まで葉色を維持することが重要**です。
- ・ 以下の施用時期・施用量を目安に、穂肥を2回に分けて施用しましょう！

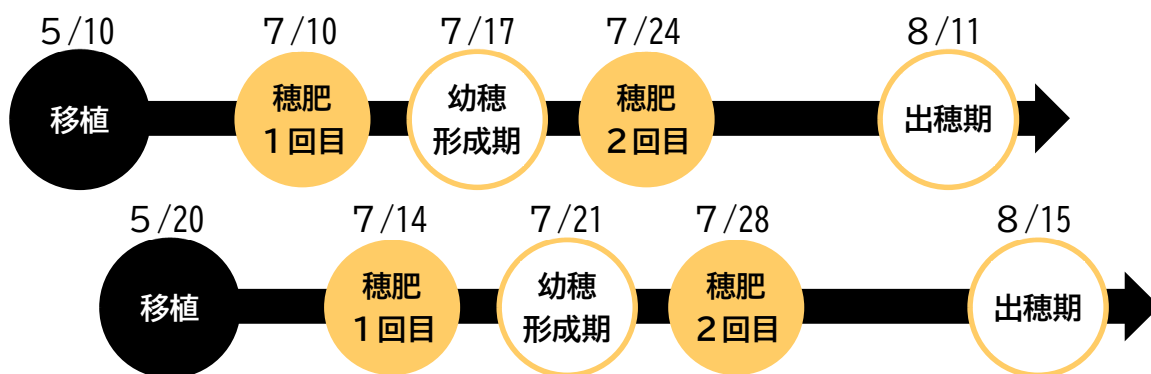
穂肥の目安

- 時 期：1回目 **幼穂形成期（幼穂長1mm）の1週間前**
2回目 **1回目の2週間後**

- 施肥量：それぞれ窒素成分3kg/10a

きらみずき栽培では
有機質肥料をご使用ください

(参考) 生育と施肥時期のイメージ



- ・ 追肥を施用していないほ場で、**穂肥時期までに葉色の低下が見られた場合、穂肥を前倒しで施用し、葉色の維持**に努めましょう。
- ・ 葉色が濃く推移し、いもち病の発生が懸念される場合は、穂肥施用時期を遅らせましょう。

3 いもち病や斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう

- ・「きらみずき」は殺虫・殺菌剤が使用できません。
- ・病害虫の発生しにくい環境づくりに努めましょう。

管理のポイント

●余剰苗は早急に処分！

- ・補植用の余剰苗は葉いもちの発生源になります。
- ・余剰苗がまだ処分できていない場合は早急に処分してください。

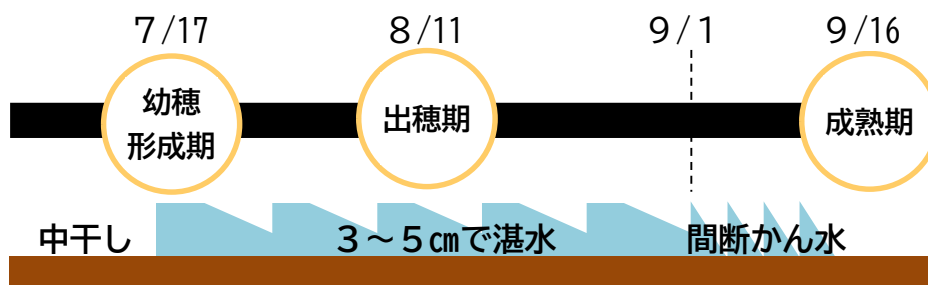
●畦畔除草を行いましょう！

- ・畦畔の雑草が繁茂すると、カメムシ類の誘因源や増殖源になります。
また、風通しが悪くなり、いもち病の発病やまん延に繋がります。
- ・イネの出穂2～3週間前と出穂期の2回畦畔草刈りを行いましょう。

4 適正な水管理を実践しましょう

- ・出穂前後各3週間は3～5 cmの浅水での常時湛水管理を行いましょう。
- ・常時湛水管理は白未熟粒や胴割粒の防止、カドミウム吸収抑制に有効です。
- ・すでに梅雨明けとなっていることから、必要以上の取水にならないよう、適切な用水利用に努めましょう。

(参考) 水管理のイメージ (5月10日移植の場合)



熱中症にご注意ください！！

予防のポイント

- ①暑い時間帯の作業を避ける
- ②こまめな休憩と水分補給
- ③単独作業を避ける
- ④熱中症対策アイテムの活用



きらみずき
滋賀県産近江米

次回：9月5日頃発信予定